

## 米国への鍼灸の伝播

今回はヨーロッパにいかにか鍼灸が伝わったかを述べた。今回はその続きとして米国における鍼灸の歴史と現状について概説したい。

鍼灸が米国に伝わったのは、最初はヨーロッパからである。米国における初期の鍼灸の記録に、19世紀の初め医師フランクリン・バッシュェによるものがある。バッシュェはかの有名なベンジャミン・フランクリンのひ孫で、鍼についてのフランスの文献を英訳したり、医学誌に鍼の効果を寄稿したり、精力的にヨーロッパの鍼灸を米国に紹介した(表1)。

表1 米国と鍼灸 関連年表(1)

1776	独立宣言を發布
1823	ランセット第1版にジョン・エリオットソンが鍼灸を報告
1826	フランクリン・バッシュェが鍼灸の論文を発表
1848	カリフォルニアに金鉱発見、ゴールドラッシュ始まる
1864	フレデリック・リンガー長崎に渡る
1872	ウィリアム・オスラー 脚 ロンドン、ベルリン、ウィーンに留学
1892	ウィリアム・オスラー 脚 『医学の原理と実践』に鍼灸を記述

次に鍼灸の支持者として登場するのは、近代医学の父と呼ばれるウィリアム・オスラー卿である。オスラー卿が医学教育と医学倫理の確立に大きく貢献したことは日野原重明先生らの多くの著作に詳しいが、彼はまた卓越した臨床家でもあった。19世紀末に書いた医学史に残る名教科書『医学の原理と実践』の中で、オスラー卿は「急性腰痛に対しては鍼灸が最も有効な治療法である」と鍼灸の効果を絶賛している<sup>1)</sup>。

オスラー卿は同書の中で、鍼灸の技術はリンガーから学んだ、と述べている。リンゲル液を考案したことで知られるイギリスの医学者シドニー・リンガーである。オスラー卿がイギリスに留学した19世紀後半には鍼灸は既に当地の医療界で知られていたが、実はリンガーには別の情報源もあった。

彼にはフレデリック・リンガーというアジアに渡った弟がいた。フレデリックはトーマス・グラバーとともにグラバー商会で働いた後、現在も残るホーム・リンガ商会を自ら設立し、そのころ長崎で大活躍をしていた。英字新聞を発行したり、長崎市民との親睦を図る内外倶楽部を設立したり、フレデリックは長崎に大きな足跡を残した。シドニー・リンガーが弟フレデリックから遙か日本の鍼灸の話を伝え聞き、オスラー卿に鍼灸を教えながらそれを話し聞かせた、と想像すると何とも楽しいではないか。

## 米国に渡った中国系移民

さて、鍼灸はヨーロッパの医師経由のほかに、もう一つ別のルートをたどって米国に伝わってきた。

中国系移民による伝播である。

19世紀中ごろ、中国は英仏とのアヘン戦争、アロー戦争、さらに太平天国の乱が続き、国民は疲弊していた。おりしも米国ではゴールドラッシュが始まり、米国のみならず世界中の人々が一攫千金を夢見てカリフォルニアに渡った。多くの中国人も例外ではなかった。

米国に渡った中国系移民は、金鉱労働のみならず農業労働、大陸横断鉄道の敷設工事、また日用雑貨・食料品・レストラン・縫製業・洗濯業など様々な厳しい労働に就き、蔑視や排斥に耐えながら米国各地に広がり根を下した。

彼らは相互扶助のために本国における地縁や血縁を重視し、集団で住むことを好んだ。こうしてチャイナタウンが北米の要所に形成され、中国の物産や生活習慣がそのままの形で米国に持ち込まれた。ここでは鍼灸も本国同様に行われていたが、一部の例外を除き、一般の米国人にとってチャイナタウンの鍼灸は無縁の存在であった。

### キッシンジャーの訪中と鍼灸

鍼灸の存在が一般の米国人にも広く知れ渡るようになったのは1971年のことであった。米国のキッシンジャーが極秘裏に中国を訪問し、周恩来と会談して米中の緊張関係が一転して緩和されることになった。いわゆるキッシンジャー外交である。キッシンジャー・周恩来会談の成功と翌年のニクソン訪中の約束を伝える中国からのニュースは、世界にとって青天の霹靂だった。

ちょうどそのとき訪中していたニューヨークタイムスの記者ジェームズ・レストンが現地で急性盲腸炎になり、周恩来の手配により手術を受けた。そして術後の疼痛緩和に鍼と灸が用いられ、その効果に感銘を受けたレストンはさっそくその様子を記事にして本国に送った<sup>2</sup>。

この2つのニュースのタイミングが重なり、米国人の中国に対する警戒心は一気に好奇心へと変わり、米国には中国ブームが起きた。こうして鍼灸は、市民から専門家に至るまで、米国人の大きな注目を集めることになったのである（表2）。

表2 米国と鍼灸 関連年表 (2)

1971	キッシンジャーが訪中、ジェームズ・レストンが鍼麻酔を報告 グレイ・ダイヤモンドが JAMA に鍼麻酔について寄稿
1973	FDA が鍼を治験用医療用具に区分
1975	ニューイングランド鍼灸学校設立
1980	ジョセフ・ヘルムスが医師に鍼灸の卒後教育を開始
1981	米国東洋医学会 (AAOM) 設立
1982	全国鍼灸東洋医学認証委員会 (NCCAOM) 設立 鍼灸東洋医学大学評議会 (CCAOM) 設立 鍼灸東洋医学認定委員会 (ACAOM) 設立

### 鍼灸学校の設立ブーム

60年代末から米国ではヒッピーが社会現象となり、彼らの自然回帰志向や既成の権威に盲従しない考え方は一般市民にまで広まっていた。これはまさに鍼灸や東洋思想を抵抗なく受け入れるための絶好の下地となり、鍼灸は急速に米国に受け入れられていった。鍼灸の受診のみならず研究も行われるようになり、FDA も鍼を正規に治験用の医療用具として認めることになった。

1975年にはボストンに最初の鍼灸学校であるニューイングランド鍼灸学校が設立され、やがて西海岸では医師に卒後教育で鍼灸を教えるシステムができた。鍼灸師は急速に組織化され、一層の普及のため

に必要ないくつかの組織が設立された（注：鍼灸関連各組織の役割については、米国における鍼灸（3）の表1を参照）。1987年には医師のみを構成員とする鍼灸学会 AAMA（米国医療鍼灸アカデミー）ができ、やがて FDA は鍼の位置づけを治験用医療用具から一般の医療用具に移し、鍼の流通は格段に容易になった（表3）。

1997年 NIH（米国国立衛生研究所）は専門家会議を開催し、鍼灸は術後および化学療法による悪心嘔吐や術後の歯痛など、多くの疾患に有効である、というコンセンサスを発表した<sup>3</sup>。NIHが与えたお墨付の威力は計り知れず、鍼灸への信頼は一般人のみならず医療専門家の間でも飛躍的に高まった。

表3 米国と鍼灸 関連年表（3）

1983	米国整骨医学会が鍼を医療行為であると支持
1985	最初の NCCAOM による鍼灸師認証試験実施
1987	ジョセフ・ヘルムスら米国医療鍼灸アカデミー(AAMA)を設立
1990	後藤学園と明治東洋医学院が米国に関連校を持つ
1996	FDA が鍼の認定区分を治験用から通常の第2級医療用具に移行
1997	NIH 主催のコンセンサス委員会が鍼の有効性を確認
2000	米国医療鍼灸委員会(ABMA)が発足、鍼灸専門医の認証を開始

鍼灸治療を受ける米国人の数は年を追って増え、鍼灸師を志す米国人も急増した。鍼灸大学が全米各地に続々と設立され、現在 ACAOM（鍼灸東洋医学認定委員会）の認定を受けた鍼灸大学は全米に45校あり、さらに認定申請中の大学が10校を数えている。

### 鍼灸は既に米国人のものに

初期の鍼灸学校の講師には中国系の人々が多かったが、現在は大きく様変わりしている。各鍼灸大学の経営陣や講師陣の名前を見ると中国系のもはごく一部であるし、学生のほとんどは米国人である。実際鍼灸師の約80%が白人というデータもあり<sup>4</sup>、患者の圧倒的多数は米国人である。彼らはチャイナタウンではなく一般の米国社会の中で個人開業し、あるいは医療センターのメンバーとして鍼灸治療を提供している。

米国の鍼灸師の数は報告により幅があるが、総数1万数千人から2万人前後であろう。注目すべきことにそのうち医師が3,000-4,500人もいる<sup>5</sup>。日本東洋医学会の正会員は8,300人、認定医が3,400人であるから、相当なものである。毎年約2,000人の鍼灸師が新しく誕生しており、鍼灸師数は今後10年間で2倍になると予測されている。

### 鍼灸師の資格と法規

鍼灸を行うにあたっての法的な規制は州によって異なり一律ではないが、全米51州のうち40州ほどが鍼灸師を医療専門職として公認し、その他いくつかの州が何らかの条件付きで鍼灸を認めている。医師以外には鍼灸行為を認めない厳しいところもあるが、極めて少数派である。

鍼灸師になるには、前述の ACAOM の認定を受けた鍼灸大学に入学する必要がある。一般大学の教養課程レベル以上を既に履修していないと受験できない。鍼灸大学では3-4年間にわたりフルタイムで幅広い科目を履修する。生薬療法は鍼灸と並ぶ重要な治療手段とされており、その履修にも多くの時間が割かれる。現代医学も解剖、生理、病理、薬理などを学ぶ。卒業すると修士の学位が与えられるので、

鍼灸大学は大学院大学であるということもできる。なお鍼灸大学の詳細については次回に述べる予定である。

大学卒業後 NCCAOM（全国鍼灸東洋医学認証委員会）の行う筆記試験と実技試験を受け、これに合格し州に届けを出すと鍼灸師の免許が与えられる。州によっては、州独自の試験を行うところもある。卒業教育を受け続けないと資格を失うのは医師や薬剤師など他の医療専門職と同様である。

### 鍼灸を行う医師たちの存在

医師が鍼灸治療を行うための要件はこれまた州によって異なる。医師は鍼灸大学を卒業する必要は無く、中には格別の訓練を求めない州もあるが、200 時間から 300 時間の鍼灸専門教育を履修することを求める州が多い。

医師に鍼灸を教えるコースはいくつかの医科大学にある。最も有名なのはジョセフ・ヘルムスが UCLA に 1980 年開講した医師対象の卒業教育コースで、これまでに 4,500 人を超える医師がこのコースを終了している。米国で鍼灸を用いる医師の 85%はこのコースの修了者だということから一大派閥である。

UCLA のコースは現代医学と伝統医学の両方をカバーし、解剖学、生理学、中国鍼灸、フランス鍼灸、五行鍼、耳鍼、手鍼など幅広く学ぶ。しかしヘルムス自身フランス鍼灸の教育を受けているためフランス色が強く、生薬には深く立ち入らない。

またヘルムスは前述のように 1987 年医師のみによる鍼灸学会 AAMA を発足させた。ここは 2000 年から鍼灸専門医の認証を開始し、鍼灸を治療に活用する医師の総本山として、米国医療の主流の中で鍼灸を代表する役割を果たしている。

医師鍼灸師の存在は米国の鍼灸に大きな特色を与えている。普通の鍼灸師と医師鍼灸師は競合する関係にあり、それぞれ自分のほうが優れていると主張している。優劣の判断はさておき、この状況が鍼灸界全体に適度な緊張感をもたらし、一層の水準向上を目指し互いに競い合う好循環を生んでいるように思える。

### 日本式鍼灸の普及

日本の鍼灸は、杉山和一の考案による管鍼の手法や、それに伴う極めて細かい鍼の使用、丁寧な切診、より少なくより浅い刺鍼など、中国鍼とは異なった特色を備えている。良導絡や間中式イオンパンピングなど独特の技術も伝わっており、米国において日本式鍼灸は繊細かつ革新的という独自の定評を博し、米国人の信奉者を増やしている。

日本鍼灸が北米にいつ伝わったかについては文献が乏しい。上記の中国ブームの前にはほとんど閉じたサークルの中での実践に留まっていた<sup>6</sup>。現在北米で活躍中の日本式鍼灸を行う人々は、日本で鍼灸を学んで米国で実践している第一世代のパイオニアと、この人々から米国で学んだ第二世代の人々である。このことから、日本式鍼灸が目に見えて普及したのはこの 2・30 年ほどのことであろうと推察できる。

日本の鍼灸界が米国へと大きく踏み出したのは 90 年代の初めで、後藤学園と明治東洋医学院が共にカリフォルニアに関連の鍼灸学校を持ち、鍼メーカーのセイリンもセイリン・アメリカを設立した。米国と日本の人材往来も盛んで、日本の鍼灸界にとって米国は身近な存在である。

このように、米国における鍼灸は既に米国人のものになり、日増しにその地位をより確かなものにしていく。そしてその中で、日本の鍼灸は独特の存在感を示しているのである。

（続く）

## 参考

- 1) William Osler: The Principles and Practice of Medicine. pp.407 D.Appleton and Company. New York, 1901
- 2) James Reston: Now, Let Me Tell You About My Appendectomy in Peking... New York Times, Monday July 26, 1971
- 3) Acupuncture. NIH Consensus Statement Online 1997 Nov 3-5; 15(5):1-34.
- 4) Acupuncture Today. Characteristics of Licensed Acupuncturists. December, 2002, Volume 03, Issue 12  
<http://www.acupuncturetoday.com/archives2002/dec/12practice.html> October 29, 2004
- 5) Ted J. Kaptchuk: Acupuncture: Theory, Efficacy, and Practice. Annals of Internal Medicine, 136(5), 374-383, 2002
- 6) Stephen J Birch and Robert L Felt: Understanding Acupuncture. pp.61,70 Churchill Livingstone, New York, 1999